

第5回 高津川河床掘削懇談会 議事要旨

日時：令和7年2月26日（水）13:00～14:30（現地）、15:00～16:30（懇談会）

場所：現地及び益田市立水防センター

出席者：赤松委員、井上委員、塩満委員、広瀬委員、安木委員（50音順）

議事要旨：

<規約の改正>

- ・委員の交代、職名の変更があったため、規約第3条の2の別表に示すとおり改正することを提案する。（事務局）
⇒了承する。（委員）

<モニタリングのこれまでの経緯と今年度の調査結果について 資料-1>

- ・近年、流量が低下している要因はわかるか。産卵適正度評価指標の浮石状態とはどのような指標か。（委員）
⇒流量低下について要因はわからない。今度もモニタリング等を行い注視する。浮石状態の指標は、無次元掃流力（土砂を押し流そうとする力）と限界無次元掃流力（無次元掃流力に対して抵抗する力）の比であり、平水流量時の河床変動解析により当該地点の河床材料における浮石状態を判定している。（事務局）
- ・産卵適正度評価時の対象流量を調査時14日前平均流量とすると、産卵適正度の精度が上がるとのことだが、具体的にはどれぐらいの流量か。（委員）
⇒令和3年～令和5年が $15\text{m}^3/\text{s}$ 前後、令和6年が $26\text{m}^3/\text{s}$ 程度である。（事務局）
- ・掘削箇所では地盤高と植生分布を調べているが、植生については種類まで調べているか。また、現場を見た際に、地盤高は二極化が進んできているということだったが、当初の想定範囲内であるか。（委員）
⇒資料のP10に示すように、種類まで把握している。地盤高については、現在の地盤高でも裸地維持指標の評価を行い、極端な変化は見られないことを確認している。（事務局）
- ・安富地区の掘削は、掘削後も親アユを捕る場所が変わっていないので、すごく良いと思う。エンコウの瀬は、随分前から産卵に適していなかったもので、変わっていないと思う。また、今後の展開において、エンコウの瀬は手を入れる検討をされるということで期待している。（委員）

<今後の河床掘削懇談会の進め方について 資料-2>

- ・今後、上流の掘削を進めていくということだが、掘削した土砂の移動場所は具体的に考えているか。上流に砂防堰堤等もあり、産卵に適した粒径の土砂が供給されにくくなってい

るので、上流に戻してもらえるとありがたい。（委員）

⇒移動場所は、現時点では決まっていない。モニタリング等を行い、土砂移動の検討を行ったうえで、上流に戻すかどうかとも考えたい。（事務局）

- ・高津川なので、アユの産卵適正度を指標とするのは当然と思うが、アユの産卵場だけで十分ということか。（委員）

⇒高津川全体の環境を評価できる指標があれば、そちらの方がよいと考えるが、アユの産卵場が作られる環境であるかの判断は必要と考える。今後、目標設定をする中、ご意見を頂きたい。（事務局）

- ・河川内での対策なので、植物については、量を増やすことが難しい中、質の向上が大事である。安富地区の掘削箇所では、裸地や草地の面積が概ね維持できているということだが、外来種が広がってきている。在来種に変えられるかはわからないが、外来種が繁茂するぐらいなら、礫河原に変えて維持していくのも選択肢の1つと考える。（委員）

- ・今後の河川整備のあり方（P3）にも記載があるように、長期的・広域的な変化も含めて評価することが重要であり、そういう意味で今回のP10の新たな産卵場の可能性の検討結果は非常によい結果だと思う。今後もこういうことをやっていくべきと考える。なお、詳細に場を評価しようとする、計算に用いている河床材料については、もう少し詳細に把握することが重要と考える。（委員）

以上